

第9回 第5期武蔵野市廃棄物に関する市民会議要録

- 【日 時】 平成27年2月18日(水) 午後7時00分～8時40分
- 【場 所】 武蔵野クリーンセンター 3階見学者ホール
- 【出席委員】 石川洋一 岡内歩美 加藤慎次郎 狩野耕一郎 木村 浩
(敬称略) 迫田洋平 竹下 登 中里陽一 西上原節子 能勢方子
山谷修作
- 【事務局】 齋藤課長 和地クリーンセンター所長 他
- 【欠 席】 阿部迪子 田口 誠 古川浩二
- 【傍 聴】 なし
- 【配布資料】
- 資料1 武蔵野市一般廃棄物処理基本計画(中間取りまとめ)に対する
パブリックコメントと取り扱い
- 参考資料 実施状況票案(当日配布)
- 参考資料 パブリックコメント(当日配布)

≪会議に先立ち、事務局より平成27年1月1日付の人事異動により、新たに着任した齋藤
ごみ総合対策課長の自己紹介を行った。≫

1 開 会

【委員長】

これから、第9回武蔵野市廃棄物に関する市民会議を開催する。

2 議 題

(1) 前回会議要録の内容確認について

【委員長】

特にご意見等がなければ、ご承認いただくということによろしいだろうか。(一同承認)

【委員長】

それでは、議題の(2)武蔵野市一般廃棄物処理基本計画(中間取りまとめ)に対する
パブリックコメントと取り扱いについて事務局の説明を求む。

(2) 武蔵野市一般廃棄物処理基本計画(中間取りまとめ)に対するパブリックコメン

トと取り扱いについて

《資料1「武蔵野市一般廃棄物処理基本計画（中間取りまとめ）に対するパブリックコメントと取り扱い」の内容について説明を行った。》

【委員長】

ご意見があれば承りたい。

【A 委員】

生ごみの堆肥化の推進について、パブリックコメントでも大きなウェイトを占めていると思うが、市の考え方としては農地の問題もあり全市的に広がらないというご意見だったが、そこは発想を変えてはいかがか。堆肥化による生ごみの減量効果は大変大きく、実際に自宅で測ったところ 200 g 位の減量効果があった。だから全市民ではなくとも、生ごみ堆肥化を行う家庭として全市民の 10% をターゲットとしたとしても全体で 20g は減るわけで、10% の市民を対象とするならば、かなり具体的な方策ができるのではないかと思うのだが。

【B 委員】

仮に 10% の家庭が堆肥化による減量を行うとすると、家庭から排出される生ごみの千トン位が減量され、ごみ減量の目標に対して非常に大きな効果がある。全市民が対象でなければならぬという考え方に疑問がある。また、堆肥を使う場所がないという事を言われるが、今回のパブリックコメントにも市民農園に特区を設けるといった提案があったように、使う先の見通しもある。武蔵野市の農地は今まだ 30 ヘクタール位あるので、極端な事を言えば、武蔵野市民の家庭から出る生ごみをすべて堆肥化したとしても、かなりの部分を市内で活用できるのではないか。生ごみ由来の堆肥の使用までは触れられていないが、市内農家については後継者問題ということもあり、市民農園として残してはどうかということが長期計画にも触れている。市民農園という話になると、ごみ総合対策課だけでなく、農政を所管する課との連携も必要になってくる。ごみ総合対策課だけで考えて駄目だという事ではなく、庁内の連携と言った発想の転換をして欲しい。

【委員長】

市の状況から制約が大きいことは間違いないと思うが、その中でも色々な可能性を探っていこうというご提案と思う。

【B 委員】

10% の市民に参加してもらえば 20g は減るという事なのだから、施策としてそれは大きな効果がある。だから市民に対して生ごみは減らさなければならない、という事を全面的に出すという事が無いというのはおかしいと思う。

【委員長】

生ごみについては、今回あらたに、「4. ごみ処理の効率化・環境負荷の低減」の部分に1項目「(5) 生ごみ・剪定枝・落ち葉等資源化処理の取り扱い」を加筆し、生ごみや他の有機ごみの減量・資源化の推進を図ることが明記された。

【B 委員】

市民活動として行っているごみの堆肥化を広げていくというのはわかるが、その前に生ごみを徹底的に減らしていくんだということを市が前面に打ち出していく必要があるのではないかと、それが入っていないというのはいかがなものか。

【委員長】

まずは、市のごみ情報誌というものがあるので、食品ロスを減らすための適量購入・調理など、市民が比較的簡単に取り組めるリデュース活動についての普及・啓発を強化していくことが必要。さらに取り組める人には資源化にも取り組んでもらう。また、生ごみの乾燥化とか水切りとかにも取り組んでもらい、長期で見て10%位減らせるような色々な施策を打っていく、という事が必要である。

【B 委員】

庭がある人は生ごみを埋めても良い。確かに資源化の前に発生抑制・排出抑制があり、その後に資源化がある。まずは生ごみを減らそうという事を前面に押し出した中で、そのように順を追って、段階ごとにPRして啓発していく必要がある。

【C 委員】

生ごみについては、ごみ量として一定量あるという事は事実。私も家庭で生ごみの堆肥化に取り組んでいるので、堆肥化が減量に一定の効果があることについては理解するところである。ただ、武蔵野市の事情としては、マンションや共同住宅にお住まいの方が多くおられ、単身者も多く、ライフスタイルも夜間しか自宅にいない等、何が出来るかは人それぞれ異なる。そのような状況で生ごみを減らすことは体系的に考えていかねばならない。委員長ご指摘のとおり、まずは食材の適量購入、そして食べ残さないなど、誰でもできる事から取り組んでもらう事が根本。生ごみ堆肥化による野菜作りに取り組める人をピラミッドの頂点として様々な取り組みを体系化することにより、全市民的な取り組みとなる。よって10%の人に対して堆肥化に取り組んでもらえば良いという事にはならない。また、物理的にできない方もいらっしゃるのでは、底上げということをどのように行うか、という事を体系的に考えていかなければならない。そのため今回「(5) 生ごみ・剪定枝・落ち葉等資源化処理の取り扱い」を加筆し計画をスタートしていく。来年度からの実施計画・事業取組状況で具体化する施策について、市として責任を持って作っていくということが、今

回の計画の大事なところ。その際、市民にライフスタイルを見直してもらおうという事が今回の大きなテーマと考えている。

【委員長】

底上げと言う表現があったが、市民の意識を変えていくということが一番重要な事と考える。

【D 委員】

パブリックコメントのご意見で「水分の問題が大きいので「おむつは出来るだけ絞ろう」という啓発をしてはどうか？」というのがあるが、今の使い捨ておむつは絞っても水分は出てこない。衛生上もそのような啓発は難しいのではないかと。また、布おむつの奨励というご意見もあったが、それこそライフスタイルの問題であるが、今の社会状況を考えると、市は奨励ではなく紹介程度が良いのではないかと感じた。

もう一点、前回の市民会議を受け2月9日に開催されたごみ減量協議会の委員8名で、この基本計画について討議した結果を報告したい。一致した意見という事ではなく、意見の集約と言う形で発表したい。「基本理念」については「高齢化社会が進む世の中で、その取り組みをしっかりと盛り込んだ方が良いのではないかと」という事で一致した。「目標値」の中で出た意見は「600gは大変厳しいが、人口増などにより市全体から排出されるごみ量が増えることが予想されるため市の目標として定めざるを得ない」これを実現するために「世代別、世帯別のライフスタイルに応じたきめ細やかな啓発が必要ではないか」「行政だけにまかせるのではなく、みんなで取り組むことが大切である」「技術の進歩で資源化できる紙の種類が増せば、目標達成に寄与できるのではないかと」「古紙業界などでも啓発活動を実施してきているので、容器リサイクルなどについて行政と事業者協働で環境教育・啓発活動行っていこう」等である。「進捗管理」については「ごみ減量協議会」の位置づけに関しては「ごみ減量の各課題について検討する組織として考える」「核となる委員は各団体を代表するような人をお願いし、課題ごとに専門的な知見を持った人に参加してもらおうのが良い」本計画の中で抽象的に取り上げられたことを具体的にしていける事が指名ではないかと。「高齢者の在宅ケアに係る福祉の事業者は市民とは限らない為、このような方たちに武蔵野市のごみ出しについて知ってもらう事が大事である」等の意見が出された。A 委員補足があれば。

【A 委員】

補足すると「減量協議会のメンバー構成について、例えば福祉分野に関係する課題ならば、市の福祉部門の職員に参加してもらいたい。」「ライフスタイルに沿った啓発活動を進める必要がある」「技術の進歩によって従来禁忌品であった紙ごみが資源化できるようになるなどの事例があるので、ごみ便利帳などの情報媒体はきめ細かな見直しが必要である」などの意見があった。

【C 委員】

おむつに対するご意見については、D 委員のご指摘のとおりと思う。また、実情としては高齢者のおむつが増えている。先ほどの減量協議会からのご提案にもあったが、高齢化社会の到来により特有の課題が増えてくると思われるので、その解決が重要になる。次に資源ごみの問題だが、資源ごみ量は多摩地域の平均より多く、武蔵野市特有の問題ではないかと思う。これについては「非常によく適正な分別がなされている」、「そもそも消費されているものが多い」、の両方が考えられるので、その要因について今後追及していかなければならないと考えており、今回、減量協議会にまとめていただいたご意見は、今後の方向付けの為に有効であると思う。

【委員長】

紙おむつの収集について現状はどうなっているのか、専用のおむつ袋といったものを使用しているのか？

【事務局】

紙おむつについては、可燃ごみの日に市の指定袋以外の袋に入れて排出してもらっている。

【委員長】

プライバシーへの配慮等の見地から、そのような自治体が増えているようである。

他に何かあるか。

パブリックコメントで寄せられたロードマップの 2 番目のものは、イメージとして減量への道筋がハッキリと見えてくるものなので、ぜひ参考にして欲しい。

【委員長】 次に議題（2）の②「基本計画の進捗管理」について事務局より説明を求む。

≪事務局より、議題（2）の②「基本計画の進捗管理」の説明を行った。≫

【委員長】

それでは議題（2）の②「基本計画の進捗管理」についてご意見あれば、お願いしたい。

【B 委員】

基本計画と実施計画はリンクしていくものと理解していたが、同一の項目について基本計画の目標値と実施計画の目標値が二本立てで示されるという事は、27年度の目標値に関して数字による進捗管理を行わないという事か？一人一日当たりのごみ排出量 600g を目指すというのであれば、年度ごとに何をどのように進める、といったことについてロー

ドマップ等を作って管理していくことが必要なのではないか。進捗管理の中で数値目標は出てこないのか。

【事務局】

実施計画は、外部に対して公表するものなので、実績を基に手堅い数字を示してきた。今回、基本計画において 600 g という目標数値を設定したので、600g を実現するための年度ごとの数値は出てくる。事務局としては、武蔵野市としてのごみの受入可能量については既存の数字の出し方を踏襲しながら、基本計画で想定する目標値と施策については、各施策ごとに本日サンプルとして配布した「実施状況票」を作成し、基本計画の目標値とのすり合わせ、実施状況などについて市民会議の場でご議論いただく。この会議の中ではあくまでも基本計画の中で設定した数値についての進捗管理となる。

【B 委員】

その場において、具体的に一人一日当たりのごみ量の計画の年度ごとの目標値と、実績の差異についての分析なども行うということか。

【事務局】

そのとおり。ごみについて個々の排出区分ごとの数字分析も含め、現状把握と原因の究明等を行っていかうと考えている。

【C 委員】

以前、資料として配布された「事業概要」に記載の「一般廃棄物処理実施計画」は法律や市の条例に基づき毎年告示をしているもの。ここに記載のあるごみ量は、年ごとのごみ量推移と実績値を勘案して算出している。単年度ごとの取り組みが主になり、前年度との比較があまりなされない。今回の基本計画で行うとしている進捗管理では、各項目ごとに「実施状況票」を作成する。具体的な目標値、各年度の予定等を記載し、年度ごとに達成できたかできないか、未達成の場合はその原因と改善案などを記載していくものなので、施策ごとの課題が見えてくるので、より具体的に施策の方向性がみえてくる。この会議でいろいろ議論されたものは、そこに反映されてくる。

【委員長】

個別の事業ごとに年々チェックをし改善につなげていく、いわばPDCAサイクル仕掛けが用意されているという事。

【B 委員】

「一般廃棄物処理実施計画」の中に「一般廃棄物の抑制のための方策」という項目があ

るが、毎年同じようなことが記載されている。この部分に実際にどんな施策をやったといったことが入ってくるという事か。

【事務局】

この「実施状況票」の中で、予定として何を見込んでいるか、という事に合わせて何を実施したかという事を記載する。「検討します」としか書かれていなかった場合、一体何をしたいのかという議論がこの市民会議の場でなされることになる。

補足であるが、市の新年度の事業については議会の承認を経なければ確定しないものもあるので、そのような状況を踏まえた表現になる場合も有るのでご理解いただきたい。

【委員長】

家庭ごみの排出量を毎年1gずつ減らすというような目標設定をしたのに、その通りに進捗しなかった場合に、どこが問題なのかチェックを入れるというイメージ。

【事務局】

従来、既存の「基本計画」と「実施計画」という文言の中で進捗管理を説明してきたが、「実施状況票」はどのような位置づけになるか、基本計画の中の目標値という物も含めて説明がわかりにくいという事があるので、明確に区分するなど表現の整理をしたい。

【委員長】

他に意見はあるか？

今年度に基本計画が固まるとして、進行管理をするということになると、一年経たないところで進行管理ができるのか、ということがあるが事務局いかがか。

【事務局】

初年度については実施状況調査の計画部分のご報告はしなければならない。基本計画が固まったあとに、年度が改まってから各施策の束をお示ししてご議論いただく必要があると思っている。一年経てば、前年度中に計画の報告をして、新しい年度に実施状況のご報告をするという進捗管理のサイクルができる。

【委員長】

現在使用している実績は平成25年度が基準年。その頃には平成26年度の実績が出てくる。

【事務局】

実績の事で考えると、市の決算は毎年9月ごろになる。従って実績報告はその直前の時

期になると思う。

【委員長】

来年度からは、基本計画の進行管理がこの会議の主たる役目となるということ。

【B 委員】

主要事業ごとに、前半5年なら5年間のアクションプラン、ロードマップを関係する市民、事業者、市が一体となって作るという事が必要と思うが、どのようにお考えか？

【事務局】

今回お示した「実施状況票」であるが、ここに記載して進捗管理をしていくものについては、市が責任をもたなければならないもの。この帳票の中身について皆様にご意見をいただいて進捗管理をしていきたい。ごみ行政は、市民、団体、事業者のご協力をいただいて実施していかなければならないものではあるが、施策の軽重なども含め進捗管理をするというのは非常に難しい。実施状況に記載する個々の施策については皆様のご協力はいただくものの、市が直接管理をするものとして経過をみていく。

【委員長】

「一般廃棄物処理基本計画」は市が責任をもって策定することが法律で求められている。策定にあたっては、市民が参加する会議でご意見をいただくことが必須となっているが、みなさんから出されたご意見は、かなりの部分で計画に反映されていると思う。問題は、その実施。計画に沿って施策が実施されていくように管理していかなければならない。その為にこの会議で施策の進行管理に関するご意見を積極的に出していただき、市はそれを参考に進捗管理をしていくという流れかと思う。

【B 委員】

たとえば、集団回収事業を今後どうしていくか検討する際には、今までこの事業に関わってきた人たちに話を聞きながら、最終的に市が集団回収についてどのような考えのもとに進めるかを定める、という事か。

【事務局】

事務局としては、課題として認識し、議論が必要なものについては、ごみ減量協議会という組織の中で検討を進めていきたいと思っている。課題によって、核となる委員の他に課題についての経験や必要な知識を有している方に参加していただき検討していきたいと思っている。委員構成としては、若干流動的なものになる。

【委員長】

他に何かあるか。

このパブリックコメントを踏まえたかたちでの基本計画案の承認についてはどの段階になるか。

【事務局】

今回、パブリックコメントに対する対応方針を図らせていただいた。本日ご確認いただいた方向で修正をかけていく。また、この会議の場でいただいたご意見もあるので、それを踏まえて修正したものを皆様に次の会議までにお送りする。それが報告書の概ねの姿となる。そのことについて次回の会議でご議論いただき、概ねの承認をいただければ、報告書の答申について一步を踏み出せる。

【委員長】

次回、最終答申案について特に問題が無ければ、ご承認いただくという進め方でよろしいだろうか？（異議なし）

それでは次回について事務局より説明を求む。

【事務局】

次回会議はお手元の次第にもある通り、3月13日に「最終答申案検討」という内容で第10回会議を開催する予定である。

【委員長】

それでは、議題はすべて終了したので、本日はこれで終了とする。

以上